

天の半分を担って

- フィリピン女性たちの経験と展望、その闘いと課題そして希望 -

トレリー・マリグザ

翻訳 木場紗綾

はじめに

女性はこれまで何世紀にもわたって、暴力の影のもとで生きてきた。世界中で女性は見下され、男性によって支配される社会においては、女性の役割は補佐的なものにすぎないと考えられてきた。しかし、フィリピンの女性のケースには、これらは必ずしもあてはまらない。

スペイン人がフィリピンに到着する以前のいわゆる「原始」フィリピン社会では、ジェンダー（社会的文化的役割としての性）における違いはなかった。土地はコミュニティによって所有され、そこには男性と女性の両方が生産活動に従事した。女性は母親としての役割を高く評価され、生産活動における役割や宗教面でも尊敬されていた。彼女たちのリーダーシップが認識されており、子どもへの偏見もなかった。

しかし、現在では平均して1時間24分ごとに1人の女性が虐待され、3時間に1人の子どもが虐待されている。これらの事実は、人々に警告を発するに十分である。

北京女性会議では、女性と女兒の人権の擁護と啓発に関する活動に焦点があてられた。貧困の撲滅、あらゆる形態の女性に対する暴力の廃絶、女性の経済的地位の向上と生産手段へのアクセスの向上などである。

我々は伝統的な価値観をもつジェンダーの状況を改善すべく努めてきた。男性は働きに出て女性は家にいるべきだという価値観はアジアの社会に深く根ざしている。無関心な女性、社会や自分たちに何が起きているかを気につけない女性、自分自身とその家族にしか関心をもたない女性たちがいる。多くの女性は、権利についての教育を受けていないために、そして女性には発言権がないという深く染み付いた文化のために、自分たちの状

況を改善することができない。伝統や「道徳」の名の下に自らを抑圧しつづける女性たちは、専門家や学者を含めて、まだまだ多く存在している。

地域的な状況

中央ビサヤ地方には 121 の市町村があるが、2000 万ペソ以上の財政を維持しているのはたった一つである。2002 年に地域の人口は 568 万 9814 人、人口増加率は 2.79、人口密度は 359、合計特殊出生率は 3.7、2004 年 4 月現在の労働力人口比率はたった 68.9、雇用率は 86.3%、増加の一途をたどる貧富ギャップ比率は 39.3 である（1998 年）¹。

家庭、学校、職場、その他の場所、あるいはコミュニティにおいて、女性と女兒、そしてそれに対する男性および男児の状況に関する議論は開かれている。ある報告によると、女性は男性より低い地位にいる。彼女たちは周縁化され、男児と平等にはみなされていない。こうした現象は、社会における女性と女兒の役割認識や家族関係の問題に起因する。政治的な決定だけではなく、宗教的な伝統、文化的な実践が人々の中に深く根ざしているのである。

女性や女兒の権利だけではなく、すべての人間の基本的人権が問われるべきである。誰も、人間としての正常な発育と、生産・再生産活動への参加から阻害されてはならない。

ジェンダーと平和の問題は深く関連しており、他のさまざまな問題とも切り離して考えることはできない。ここで、フィリピンにおいて長年に渡って許容されてきたジェンダーへの画一的な見方と平和という問題について考えてみたい。

ジェンダーの問題

国連婦人開発基金(UNIFEM)の報告によると、国際社会はジェンダーの平等という問題について女性をエンパワーできていない。188 の加盟国のうち、中等教育就学におけるジェンダーの平等と議会における最低 30%の

女性の議席の確保を達成できたのは、過去 10 年間でたった 8 カ国であった²。評価指標は中等教育の就学におけるジェンダーの平等、議会における女性の議席の拡大、賃金労働に女性の占める割合の増加の 3 つだけである。ジェンダー・アカウンタビリティの段階に達する国はひとつもない！「ジェンダー・アカウンタビリティの必要性は高まっている。この 3 分野に対する関心をもっと呼びかけるべきである。進捗状況を可視化するための目標と測定方法を定め、各個人および各機関がもっと説明責任を負い、女性問題の進捗に拍車をかけなくてはならない」³。

フェミニスト運動の始まり

1960 年代は、貧困の悪化、経済的な不正、政治的抑圧、かつてない人々の社会的な目覚めなど、社会的・政治的な激動の時代であった。フェミニスト的視点を持つ女性組織が現れたのもこの時代である。

1984 年、CWP (Concerned Women of the Philippines) が第三世界の女性運動の共通の方向性を探るための女性団体の協議に招かれ、この協議の中で、女性連盟としてガブリエラ (GABRIELA : General Assembly Binding Women for Reforms, Integrity, Equality, Liberty and Action) が結成された⁴。

異なるイデオロギー的志向や政治的方針を持つさらに多くの女性団体が表れた。危機管理センターや法律取扱所、女性移住者のためのケア、女性の健康管理などのサービス・センターが設置された。これは民主制と主権を目指す国家的な取り組みに参加したいという女性の関心によるものである。国家が自由を達成しなければ、女性の自由も達成されない。民主化は、国家の主たる問題を解決するための鍵である。人びとが自分の国について決定できるようになれば、我々は自由を貫き、ごく一部の人ではなく多くの人の福祉が優先される社会を作ることができる。

女性に対する暴力

暴力とは、故意または自覚的に相手を傷つける行為である。ジェンダー攻撃（Gender assault）とはその人が男性あるいは女性であるからという理由で行使される特定の暴力を意味する。

女性に対する暴力は男性と女性の歴史的に不平等な力関係が明示化されたものであり、この力関係は男性による女性の支配と差別を引き起こしてきた。女性に対する暴力（VAW：Violence against Women）とは性に基づく暴力行為であって、公的・私的を問わず、女性に対する威嚇を含む身体的、性的もしくは心理的危険または苦痛、強制または恣意的な自由の剥奪となる（またはその恐れのある）行為を指す。

東ネグロス州においては、女性に対する暴力事件は増え続けており、女性の権利をもっとも侵害しているのは夫である。2003年、フィリピン国家警察の女性と子どもに関する部局には、779件の女性に対する暴力事件が記録された。このうち471件は妻の身体的傷害や殴打である。2004年上半期で既に358件が記録されている。女性に対する犯罪のうち最も多く報告されているのは2003年に引き続き傷害の244件で、そのうち126件は妻の殴打、16件が成人女性への強姦事件であった。2003年は21件の強姦事件があった⁵。法廷に持ち込まれた事件のいずれもが未解決のままである。国の刑務所には現在、1万94人の子どもが収容されている。

女性に対する暴力事件の頻発は、男女間の公正がいまだに実現していないことを示す紛れもない証拠である。これらの事件は、男性と女性の身の安全の不平等を如実に示している。強姦、近親姦、妻への殴打は、最も一般的な虐待の形態である。

多くの女性は、経済的そして情緒的に依存的であるために、このような暴力的かつ屈辱的な状況の中に閉じ込められている。子ども時代に自分の母親が辱められ殴られているのを見ていた犠牲者は、そうした心的外傷（トラウマ）の影響を認識することさえできない。

不公正と差別

フィリピン憲法は男女の平等な権利を規定しているが、現実にはフィリピン女性はいまだに、家庭内、教会、社会で差別され、男性よりも下位に置かれている。

家庭ではいまだに男児が好まれ、夫婦の家族計画はしばしば男児の誕生に左右される。多くの家族には、弟や妹のために長女が自らを犠牲にするべきという不文律がある。結婚後は男性が家長とみなされ、主要な決定をおこなう。妻の役目は家庭の管理と子どもの教育に限定される。

また、道徳の面においても男性と女性にはダブルスタンダードが許容されてきた。男性が愛人を持っていることが知れてもある程度は非難を免れるが、女性が愛人を持つものならば嘲笑の的である。妻の不貞は姦通と結び付けて考えられるが、男性の場合は内縁関係が許容される。法の定めによると、妻は夫以外の男性と一度でも関係を持つと罰せられるのに対し、夫の側は家庭に責任を持っていさえすれば内縁関係があってもかまわない。姦通にかかる刑は中期から最長の懲役であるのに対して、内縁の場合は最短または中期の懲役にすぎない。不貞の定義のみならず、刑期までも男女で異なるのである。

労働においても女性への差別があり、求人広告や雇用機会は「男性向け」と「女性向け」とに区分されている。広告は女性を性の対象として利用し、女性を売買可能な商品と結びつけている。教会もまた差別的で、男性と女性は同様だという教義は実践に結びついていない。教会の教えるキリスト教徒の婚姻とは、相補性の名の下、妻の補助的な役割を前提としてしまっている。

人口と開発

一つの種と系統の存在と生存は密接に関連している。他の種の個体数が減少する間に、人類は毎日何百万単位で増殖する。1900年に世界の人口は10億人、1950年に20億人、1990年に52億人であった。フィリピンの人

口は現在 8240 万人、人口増加率は 2.36%である。2004 年には人口が 8400 万人に急増するかもしれない。宇宙の中で唯一の生命システムを自分たちが目茶苦茶にしていることを自覚している人間はほとんどいない。必要な物を入手できる環境にあるかぎり、ほとんどの人は、未来については考えないのである。

限られた資源しかないこの小さい惑星において、南インドでムスリムがヒンドゥー教徒と交わろうとするような行動はまったく不適當である。ヒンドゥー教の伝統では何世紀にもわたって繁殖と性の儀式が顕著にみられたし、一夫多妻制はムスリムの信仰にとって不可欠である。ローマ・カトリック教会は、性的交渉を一度も経験したことがないか、あるいは少なくとも宗教的禁欲を厳守する独身男性たちによって運営されている。人口過剰のために絶滅の脅威にさらされた世界で、ローマ教皇は人々にもっと多くの子どもを持つよう（ある場合には、司祭さえ貢献して）熱心に勧め続けている⁶。婚前交渉とティーンエイジャーの妊娠は、妊娠中絶の増加をエスカレートさせている。

現在 40%のフィリピン人が、日収 50 ペソ以下という政府の定めた貧困ライン以下で生活していると推定される。国は人口 11 万 3040 人あたり 1 軒の病院しか提供しない。妊産婦死亡率は 10 万出生あたり 172 という高さで、乳児死亡率は 1000 人あたり 29 である⁷。これらすべては防ぐことが可能な死である！ 1 人の母の死の陰にそれぞれ 4 人の子どもたちが親を奪われることを忘れてはならない。社会経済状態の改善によって産前産後の状況は改善され、それが妊産婦と乳児の死亡率低下につながる。

この状態は今日、そして将来、人口とリプロダクティブ・ヘルスの問題が、公平で持続可能な開発に対して人々が抱く願望の実現に大きな影響を及ぼすだろうことを示唆している。女性のエンパワメントとジェンダーの問題、とくにリプロダクティブ・ヘルスを男性が敏感に感じ取ることは、国家の優先的課題である。

人口過剰の解決法は、一部の人々が主張するような病気の流行や核戦争ではなく、富の再分配であり、思いやりのある政治と社会である。論理的に考えて、もし男性も女性も十分に食糧を得られ、十分に教育され、そし

て収入が保証されているなら、彼らの子どもたちは幼くして死なずにすむし、出生率は自動的に低下するであろう。

貧困

人々をもっとも衰弱させるのは貧困である。両親が失業あるいは非生産的である場合、子どもの栄養失調、若者の非就学、非熟練、母親が家族に食べさせるための食料を持たない場合、子どもが文字通り路上に住んでいる場合・・・貧困とは社会におけるある種の強制である。それらは、債務によって国の人口が維持できなくなり、生活必需品の価格が上昇するという事態によって悪化する一方である。

世界の国々が今日直面している経済危機とテロリズムに対する戦争という両問題は、一般大衆、とくに女性に対して破壊的な影響を与えている。どちらの問題の基本にも、女性への暴力と抑圧がある。

「アジアにおける財政危機は、雇用と賃金の両面で、男性よりも雇用機会を必要としている女性たちに影響を与えた」⁸。失業者やの大多数は女性である。女性労働者は予備労働力と見なされていて、最初にレイオフされる。雇用機会の欠如のために、女性たちは劣悪な労働条件、職場での性的虐待やハラスメントに耐えざるをえない。「フィリピンでは、男性の失業率は12%であるのに対し、女性のそれは15%である」¹⁰。女性たちは雇用不安の中で、子どもの世話、健康の管理など、金銭的見返りのない仕事に骨を折っている。一家の稼ぎ手が失業すれば、4人の子どもたちが基本的なニーズを奪われる。女性労働の「契約化」と「弾力化」が、女性たちの労働からいっそう多くを絞り取るための仕組みとして世界中の労働者階級の体制になってきた。こうした搾取は、未曾有の不景気と経済危機の時期に、女性をもっとも下位においてきた。財政危機は、女性の脆弱さ、女性のほうが男性よりも貧困の影響を受けやすい傾向にあることを露呈した。経済成長は必要だが、労働の世界におけるジェンダーの平等に対しては決して有効ではない。フィリピンでは、5人家族が生きるためには、一日に625ペソ、月に1万8750ペソが必要である。ここ日本では、「自立した

生活を送るために必要な金額は 1 年に 700 万円 (5 万 8333 米ドル)」といわれる。これだけの収入を得ている人々は男性で 24.4%、女性で 3%である¹¹。この格差はフィリピンではもっと大きい。

富裕層と貧困層の間の格差は拡大している。食糧の入手は世界人口の 80%にとっては心配事である一方、一部の国には食糧は過剰にある。多くの人びとはそれを理解しがたく、時には有害であるとさえ考えている。地球全体で考えれば、世界の大部分が栄養不良であるのに、ほんの少数の人びとが栄養過剰であるなどということは不道徳である。脳の成長には十分な栄養が必要で、子ども時代の深刻な栄養失調が知能発達の遅れを誘発することも理解しなければならない。これは何百万という人々が、知的能力に損害を受けてきたために、彼らの状態を改善することが不可能であることを意味するのである。

鉱山産業のための道路や大農場を作るために小作農のコミュニティの立ち退きが続いていることは、女性と子どもをもっとも激しく打ちのめしている。少なくとも 280 万人の、米・トウモロコシを生産する小作農の女性たちが、310 万ヘクタールの換金作物生産への転換にともなって追い出されてきた¹²。

莫大な対外債務と GATT (現在は WTO : 訳者註)、世界銀行、IMF (国際通貨基金) における交渉は発展途上諸国に深刻な影響を与えている。IMF は貧しい国々に債務を清算するため、彼らの土地のより多くにバナナ、コーヒー、ココア、パイナップル、花のような高額で輸出できる換金作物を作ることを容赦なく強制することを決定した。森林と未踏の土地が破壊され、生態系が壊されたため、先住の人々は、残されたほんの僅かの土地でしか食糧をつくるための耕作ができない。女性たちは、高級作物の生産を増やすために機械や近代的な道具なしで手作業で畑を掘るのに、男性より多くの時間を費やすので、これら IMF 政策の鋒先を向けられる傾向がある。国の借款が彼女たちに利益を与えたことなどかつて一度もなかったというのに、彼女たちの土地は、対外債務を減らすために利用されてしまっている。彼女たちは健康を害し、乏しい食事のために疲労、貧血に苦し

んでいる。その結果として、これらの国々の多くで妊産婦と乳児の死亡率が上昇しているのである。

フィリピンは現在 3 兆 3500 万ペソ（598 億米ドル）の債務にはまり込んでいる。これはすべてのフィリピン国民が 1 人あたり 4 万 1000 ペソ（732.14 米ドル）の借金があることを意味している。対外債務はフィリピンの長く、永続的な問題であり、フィリピンにおける多国籍企業と外国政府による搾取のあらわれである。我々がどんなに多く支払い、対外債務を支払うために国家歳入のおよそ 94%相当が使われるにもかかわらず、債務は増え続ける。来年の国家予算の 33%が利子支払いのため、35%が割賦償還のために消えてしまう。我々はバタアン州の原子力発電所の借款のために利息だけで年間 21 億ドル、1 日に 65 万 5000 ドルを支払っている。これは明らかに詐欺であり、人々の利益に反する。対外債務の一部は取り消されるべきである。対外債務問題の解決には、人々の強い抵抗と主権の主張が必要である。なぜなら、対外債務を処理する人々の一部は、もしそれが開発されるなら十分に我々を養えるだけの天然資源が出ると主張しているからである¹³。

人々の要求は、日常必需品、地方と都会における土地問題の改善、食物、雇用の安定、住宅、教育、健康、水、エネルギーなどの基本的なサービスへのアクセスである。

平和と秩序

平和と秩序はアロヨ政権の抱える大きな課題である。状況は悪化するばかりであり、政府は何の改善も図れていないというのは一般的な見方である。引ったくり、誘拐、自動車盗難、強姦、麻薬、賭博、シンジケートの脅威の 7 項目のどれにおいても、政府の対策は失敗している。人や物に対する犯罪は、5 分に 1 件の割合で起こっている。

経済状況の悪化と無法状態はいつもセットで考えられる。経済危機と政府の無策によって平和と秩序がいつそう乱されるのは明らかである。法執行者自身が犯罪に手を染めている。

かつてアイゼンハワー Dwight D. Eisenhower は、次のように述べた。「国家が完全な安全を満たす方法はない。もしそれを武力によってのみ安全を手に入れようとするれば、国家は道徳的にそして経済的に破綻するであろう」

人の生命と幸福を破壊するのではなく守ることが、政府による立法の最たる目的であるはずである。アイゼンハワーはこうも言っている。「すべての銃器の製造、武器の使用、ロケット火焰は、衣類で寒さをしのぐこともできない飢えた人々からの強奪を意味している」。

第三世界の人々は、人口爆発、富の分配の不平等、教育の欠如、そして土地分配の誤りによって剥奪を受け、栄養不良状態に追いやられている。彼らが貧しく飢えているのは、先進国がその繁栄のために第三世界を搾取しているがためである。

社会正義の確立と持続可能な開発の問題とは、切り離すことができない。いつまでも土地が少数の家族によって握られている中で、貧しい小作農はいったいどうすれば、自分の土地を持つことができるのか？ 立法者自身が地主であるような状況のもと、どうして、小作農の利益となるような法律が生まれることがありえよう。貴重な資源が核兵器やその他の軍備の開発に注ぎ込まれるなかで、どうやって平和が達成されるというのか。バシラン州は国家政府によって無視されつづけたことで社会不安が起こっていると長年にわたって主張している。アブ・サヤフの掃討作戦のための予算が、バシランの人びとの生活を向上させるために使われていれば、どうなっていただろう。

大多数のフィリピン人にとって、軍事化はアロヨ政権下で生き方を規定するものになってしまった。政府は平和を叫びながら、地方では軍事化が進めている。その犠牲者は女性と子どもである。北コタバト、マギンダナオ、ラナオ・デル・スールでは、2003年の1月と2月に7万3000以上の住民（ほとんどが女性と子どもである）が住む家を奪われた。これは、

MILF（モロ・イスラム解放戦線）と国軍との衝突によるものである。原因の発端は、MILFの管轄地域に逃げ込んだペンタゴンという誘拐組織を国軍が掃討しようとしてMILFを攻撃したことにある。このような状況の下で、バンサモロの人々はどのようにして、政府は平和を意図しているなどということ信じることができるだろうか。アロヨ政権はブッシュ政権のイラク攻撃に追従することに夢中になるあまり、自国民に対して戦争をしかけているのである。

MILFやNDF（民族解放戦線）と政府との和平交渉は不協和音を引き起こしている。アメリカはフィリピン共産党と新人民軍（CPP-NPA）をテロリストと決め付けている。アロヨ政権は彼らに対して軍事作戦を強行するのをやめて和平交渉の席に戻るべきだ¹⁴。しかしこの和平交渉は、合衆国とアロヨ政権に対する人々の抵抗への終わりを意味するものではない。抑圧と搾取が続く限り、人々の抵抗も正当化されるのである。

こうした抵抗がなければ、アメリカの帝国主義と地方の搾取的階級からの人々が解放され、民主化が実現されることありえない。社会・経済的な危機、あるいは政治危機は日々悪化している。現在の統治体制と大地主に対峙するためには、武装闘争と合法的闘争という二種類の闘争の形態が必要である。

フィリピン共産党は、革命的な武装闘争の形態として、新人民軍をとおした地方レベルのゲリラ戦線を強化すると宣言している。

2004年5月10日の選挙では莫大な額の公的資金が投入され、大規模な不正が行われた。人々は、腐敗してしまった政権に蹂躪され、侮辱された。アメリカ合衆国とアロヨ政権に対する大規模な抵抗運動と広範な戦線を樹立しなくてはならない。

人権と国際人道法に関する包括的合意（CARHRIHL）に基づく政府とNDFの共同モニタリング委員会の最近の報告はから、国内のさまざまな場所での一般人に対する残虐行為を明らかにし、私たちに震えあがらせた。自分の家がまったく何の理由もなく軍によって突然に機銃掃射されるかもしれない。そんな中で、いったい誰が十分な睡眠を取ることができようか？した男たちが突然にやってきて、夫や家族を選んで連れ去り、拷問に

かけるか、目の前で彼らを撃ち殺してしまうかもしれないという恐怖の中で、いったい誰が、働いて土地を耕すことができるだろうか？また、地主が自分の小屋を取り壊してしまうかもしれないという恐怖の中であって、いったいどうして未来について考えることができようか？しかし、我々の同胞は決して怯えているだけではなく、怒りを感じている。合衆国の帝国主義を支えることに喜びを感じ、民主的な言論の自由や結社・街頭行動の自由を暴力的に押さえ込もうとしているアロヨ政権に対して、怒りを感じているのである。

最近、オーストラリア政府は、フィリピンを含む、テロの可能性のある国家に対して先制攻撃をかけることを検討しているという報告があった。アメリカのイラク攻撃は先制攻撃であったことを忘れてはならない。合衆国政府の覇権は先制攻撃という標準を設定してしまった。これは、相手国の軍事問題への内政干渉であるばかりではなく、すでに侵略戦争である。オーストラリア政府の決定は、国家主権への直接的な脅威である。

ガバナンス

今日女性の権利の実情は、国によって、あるいは一国内でもエスニック集団や経済的な階級といったさまざまな集団によって、驚くほど異なっている。1994年には10か国で女性が政府のトップリーダーを務めていたにも関わらず、100か国以上の国では立法府に女性が入っていなかった。

国家あるいは地方レベルの選挙によって決められる役職に女性が占める割合は20%に満たない。女性は政府職員の半数以上を構成する一方で、公務員の幹部最高職に助成が占める割合は34.8%にすぎない。フィリピンの裁判所では女性裁判官は21%のみである。政界に身をおく女性の中には、夫や父親の「延長」か「後継者」としか思えないような人々もある。公的機関の多くの女性職員は、再生産役割の「延長」のような役職についている（たとえば、秘書、出納係、経理などである）。労働組合では女性リーダーは全体の25.6%にすぎない¹⁵。

東ネグロス州には 25 人の市長がいるが、そのうち女性市長は 3 人、女性の副市長は 2 人である。同様に、160 人の町議会議員のうち 39 人、50 人の市議会議員のうち 8 人、557 人のバランガイ長のうち 16 人、13 人の州議会議員のうち 2 人が女性である。

わが国で 2 人の女性が大統領となったの素晴らしいことに違いないが、女性の福利のための変化をもたらすためには、それだけでは十分ではない。公正な統治のためには、公正な大統領が必要である。ジェンダーの問題だけで公正さを保障することはできない。

闘志にあふれた女性団体のために、2001 年 10 月 28 日にわれわれは GWP (Gabriela Women's Party : ガブリエラ女性党) を組織した。これは、下院や路上、あるいはコミュニティや、他の闘争の場面で、女性と大衆の権利と利益を代表し、追求することを目的とした団体である。女性は、社会にとって重要なセクターである。実に、国の人口の約半数は女性なのである。女性は力を結集し、自分たちの声が届くよう、正当な要求をつきつけてゆく必要がある。GWP は、国内で女性の運動を拡大し、遂行し、強化していく上で重要な役割を果たすものである。女性としてだけでなく市民としての福利と権利を擁護するために、私たちは GWP を通じて、我々はわが国の何千もの女性に歩み寄り、彼女たちを目覚めさせ、組織化し、動員することができる。

GWP の目的は以下のとおりである。女性の権利と福利を追求すること。様々な分野で女性の能力と技能を開花させること。社会の様々なレベルで指導的な立場になれるよう女性を訓練すること。女性の利益に関することのみでなく、国家の自由、民主主義、社会福祉、人権、社会正義、環境保護、経済的繁栄を含むあらゆる問題に女性を積極的に参加すること。

闘いの 20 年、勝利の 20 年

これが、ガブリエラが設立 20 周年に確認した精神である。20 年間、ガブリエラは、その名称の由来であるガブリエラ・シラン Gabriela Silang

の闘志と愛国主義を実践してきた。ガブリエラの歴史は、女性の権利を守るための行動と献身とを明白にあらわしている。

ガブリエラはマルコス独裁政権の暗黒の時代に設立された。1983年10月28日、マルコス政権による激しい政治的抑圧と露骨な人権侵害に対して、女性が声をあげたのである。10,000人以上の女性たちがベニグノ・アキノ Benigno Aquino 上院議員の暗殺に抗議し、独裁政権の犠牲者のために街頭へ出た。

目を見張るような女性の力を決定的に示した美しい女王のようなこれらの先駆的な女性の指導者たちは、活動家のネリア・サンチョ Nelia Sancho、画家のペティト・ペレド Petite Perredo、前上院議員テクラ・サンアンドレス・ジガ Tecla San Andres Zigaなどを巻き込み、1984年3月8日の国際女性デーを機に、女性たちの声を一つにまとめた。ガブリエラはそれゆえ、フィリピンにおける全国的な女性団体の連合になった。結成時のメンバーには、女性労働者運動 (*Kilusan ng mga Manggagawang Kababaihan*) のように社会の周縁化された部門の出身者や、貧困女性統一連合 (*Samahan ng mga Maralitang Kababaihang Nagkakaisa*) のような都市の貧困女性たちが含まれていた。数年後にこの連合は、小農女性グループ (AMIHAN) や全国農民女性連合などの農民女性や、ガブリエラ青年部門の女学生、元「従軍慰安婦」のグループであるリラ・フィリピナ *Lila Filipina* を含むまでに拡大した。今日では、我々は専門家による国際ネットワーク「ガブネット」を形成し、GWP という政党までを保有するにいたっている。

ガブリエラはさまざまな社会問題、とりわけ女性問題に対するキャンペーンを通して、進むべき道を示してきた。

ガブリエラは、特に女性と子どもに対する暴力という問題に焦点を当て、セックス・ツーリズム、セクシュアル・ハラメント、性売買、買春などに関する活動の指揮をとってきた。そのなかでもとりわけマスメディアに取り上げられた問題には、アウグスト・サンチェス Augusto Sanchez 市長によるアイリーン・サルメンタ Aileen Sarmenta の強姦殺人において有罪判決が下されたこと、前国会議員ロメオ・ハロスホス Romeo Jalosjos 対

する強姦訴訟、フロール・コンテンプラシオン Flor Contemplacion の死刑判決、前州知事ルディ・ファリニャス Rudy Farinas による配偶者マリア・テレサ・カルソン Maria Theresa Carlson への暴行罪、そして最近ではクリス・アキノ Kris Aquino とジョーイ・マルケス Joey Marquez の問題とテオドーロ・バカニ Teodoro Bacani 司教に対するセクシュアル・ハラメント訴訟がある。

政治犯として囚われている女性たちの問題は、ガブリエラのキャンペーンのうちで特に強調されてきた。我々がすでに GWP を結成して議会で 1 議席を獲得しているという事実にもかかわらず、女性指導者への迫害は続いている。

現在のシナリオで、我々は状況の改善にどれだけの希望をもてるだろうか。私たちは生活に確固たる変革がほしいのである。仕事、生計の手段、よりよい賃金、公共料金と生活必需品の適正価格、すべての人に効果的な社会サービス、無法状態からの保護、平等。約束はもう聞き飽きた。

人々からの支持を獲得するためには、たとえ政府の政策が現在と逆になっても、国家の経済方針を変えることになったとしても、政府はこれらの変化を実現させなければならない。私たち、とくに女性は、現在権力を有している機関やアメリカ合衆国を含む強力な国家に対抗することになっても、私たちの指導者たちが国家の福祉に確固たる責任を果たすことを要求している。

我々は、平和と正義を求める。法と秩序の存在や戦争のない状態が平和なのではない。沈黙は平和をもたらさない。それは消極的平和である。我々は、怒りや飢えや暴力のない、安全と持続可能な開発の保障された平和がほしいのである。正義の実現された神の国を。

私たちは旧約聖書のイザヤ書に沿って、私たちの地球という惑星を美しく保つことを夢見て努力を続けるのである。

「わたしはエルサレムを喜びとし、わたしの民を楽しみとする。泣く声、叫ぶ声は、ふたたびその中に響くことがない。そこには、もはや若死にする者も、年老いて長寿を満たさない者もなくなる。百歳で死ぬも

のは若者とされ、百歳に達しないものは呪われた者とされる。彼らは家を建てて住み、ぶどうを植えてその実を食べる。彼らが建てたものに他国人が住むことはなく、彼らが植えたものを他国人が食べることもない。わたしの民の一生は木の一生のようになり、わたしに選ばれた者らは彼らの手の業にまさって長らえる。彼らは無駄に労することなく、生まれた子どもを死の恐怖に渡すこともない。彼らは、その子孫も共に、主に祝福された者の一族となる。」（イザヤ書 65 章 19-23 節）

¹ Metro Post, March 28 – April 3, 2004, p. 2.

² Thalif Deen, “Only Eight States Close Gender Gap, Says UNIFEM”, 5 June 2000, TWNOnline.

³ Ibid.

⁴ Sr. Mary John Manansan, OSB, “The Woman Question in the Philippines”, Institute of Women Studies, 1997, p. 1.

⁵ Daily Star, 16 March 2004, p. 1.

⁶ Lester Brown, “The Population Challenge”, Encarta Yearbook, 2000.

⁷ Jovy s. Taghoy, “Health Care’s Ills”, Sun Star Cebu, 22 October, 2004, p. A2.

⁸ “Asia: Women Do Not Benefit Fairly from Economic Growth”, Manila, October (IPS), TWNOnline.

⁹ Ibid.

¹⁰ Ibid.

¹¹ Suvendrini Kakuchi, “Japan: Steps in Gender Equality Come Too Slowly for Women”, Tokyo, 4 July 2001, (IPS), TWNOnline.

¹² GABRIELA National Council Report, January 2004.

¹³ Alexander Martin Remollino, “Foreign Debt: The NDFP View”, Bulatlat, October 2004.

¹⁴ Ulat Lila, Center for Women’s Resources, Inc., February 2003, p. 10.

¹⁵ Tito Nicolas, “Gender Equality and Women Empowerment Towards Poverty Alleviation”, 10 September 2004.